



2018年版 グリーン・ウォッチの概要

グリーン連合 共同代表
NPO法人環境文明21 共同代表

藤村コノエ

1. グリーン連合とは



2015年6月5日設立された、

日本の環境NPO／NGOの連合組織

現在85団体

【目的】

持続可能な社会がますます遠のく現状、

環境政策の停滞・後退が著しい現状を憂い、

様々な環境問題を克服し、「環境」を基軸とした

民主的で公正な持続可能な市民社会を築く為に、

互いにつながり結集して、強く政治や社会に働きかける！

2. グリーン・ウォッチ(市民版環境白書2018)

【目的】

1. 政府と異なる視点から、日本の環境の現状、環境政策の課題や問題点を指摘する

← 政府の環境白書が、国民の認識や評価を間違った方向に誘導する可能性や中長期的観点から国益に繋がらないと思える重要事項を見逃せず...

2. NPO/NGOの考え方や活動を知って頂き環境問題への関心を高め、市民の参加や行動を促す



2018年版のはじめに、では

- ・今年も世界各地で異常気象が多発
- ・財務省の文書改ざん問題や防衛省の日報隠ぺい問題など、国家的な犯罪とも言える事態が次々と露呈
- ・過去にも私たちの知らないところで真実が歪曲され隠蔽されていた



誰が真実を伝えるのか???



グリーン・ウォッチの役割は重大

1章 主要な環境政策のレビュー

第1節 気候変動問題

第2節 再生可能エネルギーと電力自由化

第3節 廃棄物

第4節 化学物質

第5節 気候変動と第一次産業

現場を熟知し活動するNPO、研究者として、

政府とは異なる見解を伝える

政策転換の方向性を提案する

2章 7年が経過した福島

福島第一原発事故から7年が経過した今も、
厳しい状況に置かれる福島の人々の現況や子ども
たちの健康被害、廃炉作業や放射性廃棄物の処分
問題、廃炉と再稼働問題、放射能汚染防止法の制
定に向けた動きを紹介。

また今後原発や放射性廃棄物とどう付き合ってい
けばいいかについて。

第3章 私たちはどんな社会を目指すのか

【趣旨】

- ・個々の環境問題の解決を通じて、持続可能な社会を作ることがグリーン連合の最終目標
- ・現状では明確な将来像を、国も、グリーン連合の示していない
- ・いくつかの試案を示すことで、多くのNPOが多様な人を巻き込んで将来像を描くきっかけにしてほしい

4つの試案

	環境文明21	東近江	国立環境研究所	環境省小委員会
メンバー	学識者・研究主 企業人・NPO	研究者・NPO 地元住民	研究者	産業界寄研究者 産業界
現行システムに対する考え方	限界・見直し必要	限界・見直し必要	前提にする	前提にする
制約条件	脱炭素化 誰一人置き去りにしない	脱炭素化 誰一人置き去りにしない	脱炭素化 誰一人置き去りにしない	脱炭素化 ??
重視した点	社会の持続性と 個人の人間性の 発露という方向性 に沿った社会変革 を促すための 基 本的価値 (共生、 互助・利他、中庸、 知足など)を重視	人々の暮らしと環 境を含む様々な 地 域の資源を重視し、 それらを有機的に つなぎ 地域全体の 持続性を確保する こと	個人、社会、経済、 環境の大きな目標 と12の具体的な目 標を掲げ、その上 で2つの望ましい社 会像を提案	従来 の経済成長 や技術の進歩

・様々な立場、視点があり、将来像も一様ではない

○将来像を描く作業を通じて、
地域、社会には環境だけでなく多くの課題がある
その解決に向けて、それぞれの役割を認識する
当事者意識を持ってもらう



NPOだけでなく、多様な人を巻き込みつながることで
活動の輪を広げ、
持続可能な地域、社会の実現に向け第一歩を！

4章 国内外の注目すべき動き

1. 自動車業界「脱炭素化」へ急発進
2. 省エネ住宅をめぐる状況
3. SDGsの動き
4. 欧州における環境NGOに対する公的資金助成

グリーン連合として、

- ・めざすべき社会像とその役割を共有する
- ・その実現に向け、政策提言活動と地域活動をつなげる



- ・多くの市民に信頼され、待ち望まれる「グリーン・ウォッチ」



後半のテーマ

欧州における環境NGOに対する
公的資金助成
～遅れている日本の公的資金援助～